

報道機関各位

平成20年1月16日
東北大学生命科学研究科

マナマコ卵成熟誘起因子の構造解明と人工合成に成功
(ナマコの飛躍的増養殖に目処)

<概要>

マナマコ卵成熟誘起因子の遺伝子及び蛋白構造とその有効活性構造を解明し、その活性を持った人工因子（合成ホルモン）合成に成功した。この合成ホルモンの採用によってこれまで成熟卵の採取が困難であった現状を打開し、密猟の頻発によるナマコ資源枯渇の恐れへの解消とナマコの飛躍的な増養殖と輸出振興にめどがついたと言える。この合成ホルモンの遺伝子DNA配列とアミノ酸配列に関して1月15日東北大学から特許出願を行った。

<合成ホルモンで成熟させた卵から発生させたナマコオーリクラリア幼生>



(お問い合わせ先)

東北大学生命科学研究科附属浅虫海洋生物学研究センター
担当：加藤秀生（かとうひでき）、佐竹光一事務係長
電話番号：017-752-3390, 017-752-3388